

有宵会だより

第47号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

十月・十一月の運勢

気学では戌十月

十月九日(寒露)節入り

天道
道ア

8	4	6
7	9	2
3	5	1

生氣

破

気学では亥十一月

十一月八日(立冬)節入り

生氣

7	3	5
6	8	1
2	4	9

天道

破

ア



一 白水星の人の運勢

十月筮一 沢山咸の九五

十一月筮一 天沢履の九二

最近は何かと忙しく落着かない。気を抜かず疲れが溜まるが気分転換を上手に。趣味や嗜好の味変化と遊ぶ心を忘れずに家族に軽い意見の違いを調整し金銭は手堅く。疲労、足腰、肝胆の回復を。

十一月運は予定路線を進め懸案問題は着実に処理。誤解があれば対話不足が原因、女性は下旬に好運あり。出費をセーブ派手にならず。体調は食生活に口腔と打撲に注意。

二 黒土星の人の運勢

十月筮一 水火既済の初九

十一月筮一 天風姤の九四

諸事先を急がず一歩ずつ進める。仕事は本業中心、交際面は常識範囲で接触を。下旬は噂と皮肉など傷つくので用心。財布の中身確認と支払金額チェック。愛情表現率直に。口腔と気管不順気味。

三 碧木星の人の運勢

十月筮一 震為雷の六二

十一月筮一 水雷屯の九五

十一月は雑用多いが気を抜かず、整理整頓で気分は良好。身近かなトラブルには冷静に対処。家庭食事で愛情をふんだんに示す喜びと節約方針。風邪、胃腸、腰痛再発か。

十一月は平穩にするのが得策、チョツと一息つくとき。約束や予定延び気味。書類と印鑑の扱い慎重に。下旬は誤解心と予定外の出費あり。視力と歯の手当、胃胆注目を。

四 緑木星の人の運勢

十月筮一 山地剝も上九

十一月筮一 地雷復の六二

諸事にわたり自重運、

五 黄土星の人の運勢

十月筮一 沢地萃の九四

十一月筮一 天山遯の六二

漸進方針で臨む、何事もやり過ぎずほどほどに。中旬に人集まる処に好機生ず。身内や部下の協力を得て実績アップ、他人の仕事に口出しせず悠々と歩む。家族交わりが吉

十一月は堅実運で地に足を着けて歩む。不況の業種は試練を乗り越える対策。相手が強気なら上手に退く、交際費と雑費多く半減で幸運の旅行を。過食、骨質、持病の再発。

六 白金星の人の運勢

十月筮一 水天需の六四

十一月筮一 坤為地の上六

備えあれば憂いなし、公私にわたり将来のため着々と準備。目標に向けて実行です。知識だけでなく経験が必要、仕事は実績に期待あり。親近者に情を込めて対話、金銭良好。胃腸、筋皮膚用心。

七 赤金星の人の運勢

十月筮一 沢火革の上六

十一月筮一 雷山小過六五

公私に新たな動き出て取組む。本業や生活に必要な知識を吸収、人の好意に感謝し低姿勢で接して安全。仕事は確実に仕上げ吉。生活の改善、合理化を図るが金銭は平凡

疲労、神経に休養が大切。十一月は平穩、しかし交際面で予期しない風評に用心。高望みをしないで現実路線でいく。娯楽趣味の楽しみを持ち、家計を充実する予算が必要

八 白土星の人の運勢

十月筮一 沢水困の初六

十一月筮一 山地剝の上九

現状維持に努めれば安泰、何でもやり過ぎないで待つ。難問には手を出さず、家事は上旬に仕事は中旬に処置、夫唱婦隨で親子の絆です。生活に生き甲斐を求める方針吉

九 紫火星の人の運勢

十月筮一 山地剝の上九

十一月筮一 水天需の九三

好調ですが運氣の乱れがあるので予定変更が出やすい。強行策は裏目になるので慎重に。家庭に予期しない噂か訪問者、用事など滞りでも焦らず

金銭は安易さに注意。もらい風邪、筋と腹部張り。十一月は少しのんびりしたいが雑務山積、旧友再会と美味の玩味。仕事は守備固めて安心、証書類の管理を忘れずに。家族の団樂が嬉しい。胃腸血流、関節、浮腫の用心。

九 紫火星の人の運勢

十月筮一 山地剝の上九

十一月筮一 水天需の九三

十一月は徐々に運氣の手応えあり。他人に惑わされず信念を貫く、ストレスが溜まれば旅行や食通の楽しみ。童心にかえり夢を持つ、仕事は話し合いが必要、金運は自重。頭部、循環系、心身疲労。

福田 有宵

七月有宵会報告

久保田恵都子

七月三十日(土)足立区こども家庭支援センターに於いて、NPO法人岳易館・有宵会 第二回(通算十五回有宵会)総会と、菅原有恒先生の「書道と筆相」、吉田侑加先生の「宿曜占星術」のご講演による、勉強会が開催されました。



総会報告

福田有宵理事長の司会進行によりまして、開会されました。開会にあたり理事長より、平成二十二年度NPO法人岳易館・有宵会としての経過報告があり、「五回のボランティア鑑定と講演活動、また、東日本大震災では皆さんよりの義援金五十万円が、会より赤十字社へ届け納められました。」のご説明がありました。各役員による、活動報告と計画案が示され、全会

一致の承認を得ました。

勉強会報告

菅原有恒先生、吉田侑加先生のご講演に際し、先生方からは、詳細なる資料を配布いただきましたので、要約して記載させていただきます。



書道と筆相 第一回目

菅原 有恒先生

サイン(倉字・倉名)

1. サインの種類
恒常性とは、いつも同じように。力動性とは、筆圧のこと。真似することとはできません。

2. 標準的なサインの書き方
真直ぐには書けないもので、右上がり十五度は空間ができ、綺麗に見えます。

横線の並びの等間隔は、楷書の基本です。
筆の最初の入れと、最後の押さえをしつかりと中弛みをしなないように。字の緊張感が無くなりません。

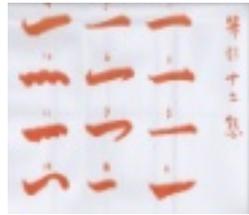
大・小の関係を付ける

ことで、全体のリズムがです。

リラックスして書くことにより、他の人との違いで個性がでます。

筆相とは

筆相・書相とは、筆文字で、筆の巾を見て、その一本の中に、九星や干支を当て嵌めて、何処に強さがあるかを見るとき、それが元々の書相学の発想であり心理学になります。書相学に出てくる基本的なもので、一の字が十二種類ある。



筆形十二態と、丸または、口と呼ぶ、円形十三法があります。一は角で陰、丸は陽。いわゆる陰陽で、この二つが書ければ字というものが解ります。特徴は、筆で書いて

ているところ。ペン字で書いて判断しても解りにくいかと思えます。現在は硬筆が多く、それが筆跡鑑定になります。

筆相の定義

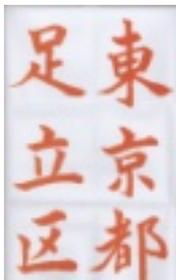
行動学と運勢学とが絡む意味があり、重要なことは、筆相が変わると、人間性も変わるということ。事実そのようなプログラムを取り組みもあるそうです。字を書くとき、人は五臓六腑を使って書く訳ですから、元気のときと、病気のときとは、字は違ってきます。肉体、精神や自分の感情など、その時の状況で瞬間瞬間に字が変わるといことは、筆跡学の根底であり科学的結果で、人間の心理が解るのです。

応用例

実際に、会社で用いられているのが、人物採用と、何処の部署に配属したら実力が出せるか等の、適材適所への利用です。

筆相をどう判断するか

心の揺れ、物体の変化を見るものとして一番解



りやすいのは、葉書です。宛名の表と裏が違う人が大勢います。見方のポイントとして、空間と字形の二つです。空間の何処に書くか、場所の問題。

上をあげるか下をあげるか。転折は字の角が、丸か角か。接筆は、足の字を例に取ると口の一目目から二画目に入るとき、開いているか閉じているか。上が閉じていると、お金が入ってきませんし、下が開いていると、お金が貯まりませんので、下はしっかりと止めてください。線の長短は、東では、縦線が上に沢山出るか、出ないかによって、性格の違いがあり、沢山出ている人はリーダー的要素有り、出ない程サポーター役。連綿は、上の字から下の字への流れの繋ぎ。筆圧は、強弱で見分け方は、鉛筆で書いて紙の裏までしつかり通っているかで判断します。

一番良いのは、細い線で強い字を書けること。筆速は、スピードで筆勢とも言います。線形は、太いか跳ねているか。起筆、収筆は、最初の筆の力入れ方と止めるところの押さえ方など。これ

らの簡単な判別方法として空間処理の五つと、文字形の十五と併せて、七十五種類の組み合わせがあります。

筆相は何を教えるか

筆相で運勢をどう表すか。運勢は通常、未来を、筆相は現在を現します。天気予報とは、予測を意味し、悪い結果が出た場合、どういう状態だから、どう直すかの対処策で、今の結果を良くする方向性を考えることができず。方法は、今迄申し上げてきたことを練習、訓練することです。

筆相の改善

文字を見て、紙の半分には自分で書き、残りの半分には、お手本を複写します。そうしますと字の違いが解るうえ、字形を覚えるという点に於いては効果的だと思います。

悪い筆相



神経質的で緊張感がない。一つだけ例外があつて刃物を扱う美容師さんや包丁を握る人は、このような字を書く可能性が

高いと言われています。まず、上の字を書いたら次に何処に書くののかの神経が行き届いていない。自分以外のことは見えない。これは要注意。止めなくてはいけないという感覚が無いので、車だとぶつかるといふ無謀運転です。

気持ち小さくなつていく精神的な要素があり、これらに落ち着きがない。これらの項目のうち、二つ以上重なったときは、一、二ヶ月の内に何か起きることを引きずつていてと考えられます。書家の場合、うねると言つて曲がっているようにも中心が通つています。これからは、そのようなところも見ていただくと、字は面白いかと思ひます。今日は全体を見ていただいて、良いサインの書き方と、悪い筆相の例をお伝えしました。皆さんの明日からのお役に立つかと思ひます。

質疑応答

(問) 字の大きさは、性格と関係がありますか。

(答) 字の大きい人はおおらかで、小さい人はどちらかという気が小さ

以上

めです。

(問) 右寄りに行くのはどうか。

(答) 一つは、自分を追い詰めている。最悪ノイローゼになりやすく、はみ出して行く人は、気持ちの張りがなく健康・精神の再チェック。

菅原有恒先生は、平成十八年五月に約七年の歳月をかけて書き上げられた作品、周易写経展を東京交通会館にて開催されました書家で、作品の総合文字数は、二万七千字にも及ぶとのこと。

当日は、出版作品の中から黒の写経用紙に楷書で一文字一文字に金粉を付けて書かれました周易経文と、篆書で書かれた雑卦伝の貴重な二点を、ご披露いただきました。誠に有難うございました。

宿曜占星術

吉田 侑加先生



宿曜経(占星術)は、東洋で初めて生まれたホロスコープによる占星術です。インドが発祥の地で、中国に渡り今から約一二〇〇年前に、空海が唐から宿曜経という難解な経典を日本に持って帰つてこられて、この宿曜占星術が作られました。宿曜占星術には、27宿と28宿の二種類がありますが、その違いは28宿には牛宿が入ります。牛宿は毎日正午になると現れて月間を通じて万物を統括すると言われ、27宿では外されています。27宿の名称は読んでいただければ解ると思ひます。また宿は、スクとも言ひます。利用法として、相性、親子、上司と部下、兄弟の関係など、人と人との相性を良く見ます。盤を重ね合わせて使いますが、外側が12宮(西洋占星術の12星座)に相当し、内側に27宿の盤、真中に相性の輪である三九の秘法をセットします。命から九番目に業、業から九番目が胎。各の間には業から親まであり、これが三九の秘法です。命に自分の宿星を合わせ、相手との関係を見ますが、

相性の強さは、近・中・遠距離の三つがあります。またこの宿は、生年月日を万年暦により旧暦で出していただきます。

栄親・夫婦星。 近距離の関係は、若い時は楽しくて良いのですが、年を重ねるとマンネリ化しやすくなるかもしれませんで、お互い努力をしていただくことが必要で、結婚の相性としては、中距離が一番良いのではないのでしょうか。

危成・友達星。 近・中距離は、同じ意味を持ち相性としては悪くありません。

友衰・恋人星。 会社の社長さんから、どの人を雇つたら自分にプラスになるかとのご相談もいただきますが、自分と衰の相性になる人は、社員として採用しない方がよいとお薦めしています。おとるえともなりますので、女性の場合、衰の男性と結婚すると、余り働いて貰えず、稼ぎが無い人に見たりもします。

安壊・引力星。 宿曜経では、すぐく縁のある星と思つても、避けられないものがあると思つので

す。前世の因縁で今世に生まれ、それで出会いがあつて、ピツピツと引かれるのです。安壊には、逆縁という関係があります。(命)角宿を例に取ると、胃宿が壊に当たります。角宿が男性だと、胃宿の女性に惹かれてゴールインしても、女性から破壊されてしまいます。逆に男性が胃宿のとき、胃宿には、胃袋の意味があるので、女性は、ご主人に一生懸命尽くさなければなりません。女性は破壊されても引力が強いので、比較的我慢できま

ですが、男性の場合は、我慢できず離婚も考えたりすることもあるのではな

いかと思ひます。安壊での子供で結婚した場合、子供に恵まれなかったり、子供で苦労したりすると言われているのですが、安壊だけは、一つ対処策があるので。今世の出会い

は、前世のご先祖様同士、ご縁があつたがそのご縁は余り良いものではなかつたので、両家のご先祖様を大事に供養することを守つていただかなければなりません。

業胎・赤い糸。 縁が深いので、夫婦で一緒に商

売をすることなど良く、お薦めしています。

命・同じ星同士。 同じ日でなくても、旧暦で合う場合があります。また、日盤に置き換えて、その日の吉凶を見ることもできます。自分の星を命に合わせ、その日の星を出していただきます。気学の同会と同じ意味です。

業は、一番には始まりの良い日。命は、何かをしてはいけない。業は、プラスになる吉日。小金が入ることや、取引が上手くいったりします。衰は、もの哀しく体もくたびれて何もする気が起きないでしょう。壊は、頭が冴えなくて体がくたびれ、やる事が積極的には向上できない。友は、最高の日で、親も良い日です。このように、字によつて毎日の運勢が解るようになります。

例題の説明
夫婦は共に、角の命宿、子供は男の子で胃宿。親子は、安壊の逆縁です。十年目に授かつた子供をどう育てたら良いかとの相談です。

先程の男性が、女性から破壊されるのも逆相で、親が子供から破壊される

先程の男性が、女性から破壊されるのも逆相で、親が子供から破壊される

のも逆相です。角宿のご主人は、内心頑固です。しかし、自分が気に入ると頼まれたら嫌とは言えず、目下や部下とは同じレベルで付き合う。人気のあるお洒落なスタイリストだと思えます。女性は美人で声が魅力的。手先が器用で料理上手の働き者で夫婦仲良く、夫に良く尽くします。長生きの星で食べ物には一生困らない。27宿から見ると運勢です。このようなご両親は、子供に気を遣って可愛がります。子供は胃宿、胃袋なので、お腹が空いてとても食べます。大人になってから消化器系統に気を付けなければいけません。実際回りで見ていても、大変食欲があるそうです。逆縁の子供とは、長男であつても、一軒同じ家に住まない方がいいので、少し大きくなったら、海外にでも留学し、語学の勉強をして身に付けたら良いのではないかと思えます。胃宿は、人を見抜く直感力が冴え、幼少の頃から親の庇護を受け、忍耐強く、先生に言われたことはきちんとして守る子供なので将来独立して、なるべく家を

を離れるようにしてあげることができればいいのではないかと、お伝えするつもりであります。
質疑応答
(問)安壊で別れた人の場合の再婚はありますか。
(答)再婚はあると思いません。安壊は本来、離婚はしない方が良いでしょう。嫌だ嫌だと言つても出会って惹かれるものがあり、親がたとえ反対しても結婚してしまつたのです。最後に、この宿曜は、あくまでも私の経験と方程式であつて、絶対にこうなるといふことは無いと思えます。これを上手に使つていただいて、個々に皆さんが研究を深めてくださると良いのではないのでしょうか。
以上、人には様々な形の出会いと、ご縁があることを教えていただきまして。有り難うございました。

鑑定経験から

得たもの

石田 宗己

初めて投稿いたします。

平成二十一年三月より湯島聖堂で福田有宵先生に

教えを請つておられる者です。私は滋賀県の中高一貫教育校に勤務しているのですが、去る七月十二日(火)に文化祭が行われました。今年度は久しぶりにクラス担任を離れましてので、占いコーナーを設けて鑑定して見ようと思ひ立ちました。これまで生徒を鑑定しようとは露ほども思はず、むしろ鑑定してほしいといわれたらうつとうしいので、自分が運命学を勉強しているとはほとんど話しておりませんでした。

しようが、生徒は恐らく笹竹など目にしたこともないだろうから本物を見せたいという思いがあつて、あえてそうしたので鑑定スペースの四方に粗塩を置き、机上には厚手の黒い不織布をかけて、敷物の上に算木を三組置きました。掛器を据え、笹筒に笹竹を立てて、香を焚くと準備万端、開始時間を待たずして一人目の生徒がやつてきました。恋愛の件を尋ねたいとのこと。笹前の審事を終え、いよいよ笹竹を執ると、生徒の顔がみるみる真剣になつていくのがわかりました。息を殺して私の挙動動作をじつと見つめています。こちらは生徒の真剣さを感じ、ますます精神を集中させねばと念じて卦を出しました。いよいよ占断です。どんな卦を得たかは覚えていませんが、真摯に答えたことは確かです。その生徒も真剣に受け止めてくれました。こうして後から後から生徒がやつてきました。相談の八割方は恋愛の話で、中一から高三までその内容もいろいろです。彼氏とけん

かをしたのだが仲直りしたい、どうすればよいかとか、別れた彼女のことやつぱり好きだ、再びつきあえるかとか、現在彼女・彼女がいなくても恋人は現れるか、などです。中高生のころは恋愛がすべてなのかなあ、そういえば自分もそうだったなあとか、生徒は自分たち教師の知らないところでいろいろ悩んでいるんだなあなどと思ひながら座つておりました。

作家になりたいが夢は叶うかという生徒も二人おりました。一人は高三女子、かつて滋賀県彦根市が主催する舟橋聖一顕彰文学賞の二席に入賞した経験があるとのこと。大学を卒業してすぐ作家デビューできませんかというところで笹した結果、風天小蓄の六四を得ました。大学卒業後すぐとはいかないが、可能性はあるので、たゆまず努力しましょうとアドバイスしました。

得卦は沢水困の九四。文章に独自の光るものが無く、どの作品も同じような内容のものばかりで変化に乏しい。流行作家になろうと思えば、世の中が求めているテーマについて書かなければ、作家として食べていくのは厳しいよ、売れるまで何年も辛抱できるのかな、ものを書くのは仕事としてではなくてもできるよなどとアドバイスしました。

そのほかの相談としては、自分の適職は何か、健康面が気になる、このごろ人が信じられなくなつてなにかいらいらするがどうしてか、などがありました。

実は文化祭ということでも冷やかしの生徒が来るかもしれないと疑う向きもあつたのですが、みな真剣で、列をなして占つてもらおう順番を待つてくれていたそうです。こうして朝九時から昼の三時まで休憩なしで鑑定しました。

私は教師としては厳しい部類に属することもあつて、普段なら生徒は恋愛の相談などするはずがありません。しかし、この

久保田 恵都子

七月の例会は菅原先生の筆相のお話と吉田先生の宿曜占星術のお話と実際に即したお話を頂き有難うございました。感謝申し上げます

日は勝手に違いました。実に素直に真剣に個人的なことを話してくれるのです。易の力つてすこいなあと改めて驚嘆しました。

今回、実占の機会を得て、今更ながら思ったことが二つあります。一つは、厳しい卦が出たときのアドバイスは慎重に、かつ具体的に対処の方法を相手の身になって話すべきだということです。これは我々教師に求められているカウンセリングマインドそのものです。

二つ目は、福田先生が常々おっしゃっている次のことを痛感したことです。それは、「実占ばかりをやっているのは『卦を叩く』ことがおろそかなり、逆に勉強ばかりで実占の経験が足りなければ、占断を誤っても責任がないのでどうしても卦と真剣に向き合うことができなくなる。」というものです。これは孔子がおっしゃった「思而不学則殆（思ひて学ばざれば則ち殆し）。「学而不思則罔（学びて思はざれば則ち罔し）」と同じことになるのだと思います。

「卦を叩く」とは、象辞爻辞十翼を読み、象を見、生卦法を考えて、占的と得卦との共通性を探り、多面的な読みと具体的な対応の方法を深く検討するということですが、今回の実占を通して、今の自分は、得卦を占的にあわせてなんとか読めても、福田先生のように端的でわかりやすい言葉や、多面的読みによる三言め四言めアドバイスが口から出ることはないということがよくわかりました。

また、易に対する真剣さがどうも足りなかったというところも身にしみて感じました。しかし、今回、自分はいまの経験も学習もまだまだまだということがはつきりとわかり、今後の進むべき道が示されたように、自分としてはむしろよかつたなと感じているところではあります。

石田 宗巳



「左眼に心せよ」山形・出羽三山旅行

八川 林加

前回からの続き

しかし、自宅から三百キロ離れた山形県庄内エリアに入ると、日本海沿いの国道から自然渋滞が始まりました。それまでは出来るだけ距離を縮めようと主人が夜通して車を走らせてくれましたが、夜が明けると道草を楽しむマイペースさが出てきました。渋滞を回避するために立ち寄った道の駅では、朝一番に水揚げされた新鮮な魚と、採れたての孟宗竹、そして「はえぬき」という庄内米のご飯で朝食を頂き、思いがけず朝一番から地元の特産品や旬の味覚を堪能しました。ところで、水天需の卦には飲食の解釈が伴いますが、道中出会った水天需の料理は、

地産地消そのもので、人間が自然の一部として本能的に備えている食欲を満たしてくれるものであり、旬の味覚を堪能する喜びでした。福田先生に頂いた占断メモをじっくり見ながら、旬という側面から水天需を自分なりに

考えてみると、これまでネガティブに捉えがちだった「時期を待つ」という言葉が「あえて旬を頂く」ことに繋がります。実は一番よい時期を選ぶために待っているという、ポジティブな言葉に聞こえてくるのです。

最初の到着地となった湯殿山・注連寺（真言宗・智山派）に着くと、御神木の七五三（シメカケ）桜が満開を迎えていました。七五三桜は、花の咲き初めが白く、花が開くにつれ鮮やかなピンク色に変わる不思議な桜で、かつて弘法大師がこの桜に七本、五本、三本の縄で締め上げた注連縄を桜の木にかけて結界をつくり修業したと伝えられたことから、七五三の名がつけられています。当初は、最初の目的地に湯殿山神社本宮への参拝を予定していましたが、山形に着くまでは湯殿山の開山に期待をもっていました。今年には積雪が異常に多く、また震災による燃料不足が重なって五月中旬を過ぎても山が閉ざされてしまいました。福田先生の占断は的中し、湯殿山神社本宮を参拝ルートから

を外しましたが、「語るなかれ聞くなかれ」と伝わる湯殿山の御神体を拝観できない悔しさで内心は至極落ち込んでいました。

注連寺のお堂に入ると、まず目に飛び込んできたのが、鮮やかな色彩で描かれた天井画の数々です。いわゆるミイラが祀られているという暗い印象は全くなく、むしろ芸術色が濃い印象でした。案内の方からお寺の由緒を聞くと、御本尊・大日如来の前で湯殿山が発祥という大きな梵天でお祓いを受けました。梵天とは、神社の神職が修祓の儀で使用する大麻と同じ役割のもので、白い紙の紙垂を幾重にも重ねてポンポン状に束ね、長い竿を付けたものです。清めの儀式では必ず梵天が使われるそう、ここにも神仏習合時代の名残を垣間見ることができました。さらにお堂の奥に進むと即身仏・鉄門海上人の所へと続きます。上人の頭上にある天井には、画家・木下晋氏による「天空之扉」という、合掌する老婆の手が描かれています。合掌した手は歳月を

重ねた人生そのものであり、来世への扉を象徴するものでした。まるで、まだ見ぬ湯殿山の御神体はこのようであると、鉄門海上人がそつと教えてくれたような気がして心が震えました。

お寺の方による説明は続き、鉄門海上人が武士殺しの罪を悔いて出家した後、五穀十穀を断つ木食行を三千日間も行い、「我に祈願する者に対しては、諸願を満足せしめん。」と遺言を残し即身仏になられたこと、また生前は、江戸時代の眼病平癒のため、自らの左目をえぐりだし隅田川に投げ込み龍神に悪疫退散の祈願をしたなど、数々の逸話が語られました。「左目？」一瞬ハツとしました。福田先生の占断メモにあった「左目」のお話があったからです。お寺の説明が終わると自由に堂内を巡りました。鉄門海上人が祀られている厨子の前に座ると、般若心経、観音経を唱え、更に十二支の守り本尊の前で不動明王の真言を唱えお参りをさせて頂きました。すると、背後から「お経はどちらで覚えま

したか。」と、ご住職が声をかけて下さいました。気恥ずかしさで逃げ出しなくなりでしたが、お経は独学で覚えたもので、発音や息つきは、自宅近くの高幡不動尊（東京都日野市）に通い、誰でも参加できる護摩祈祷の機会です。覚えたことをお話ししました。すると、ご住職から意外な言葉が返ってきました。「高幡不動尊というところは、東京の多摩方面のご出身ですか？それは御縁がありませんね。高幡不動尊は、注連寺と同じ真言宗・智山派のお寺です。そこには、高野山と一緒に修業した友人が従事している関係で、年に一度は東京の方に出向くのですよ。」とお話をして下さいました。御縁とは何と不思議なものでしょうか。初めて訪れた山形の地で東京の自宅近くをよく知る人に出会うとは、まして鉄門海上人が祀られている注連寺のご住職と共通の話題をもてるのは夢にも思わなかつたからです。ご住職は、さらに主人の方を見るなり、「お数珠が略式のものですね。それではいけません。お経が唱え

られるなら、仏事とは別に本式の数珠を揃えるべきです。作法を学ぶことも大切な修行の一つです。」と教えて下さいました。そして、「さて、御縁があるの、さらに言い伝えのお話をしておきましょう。仙台市若林区にある『浪分（ナミワケ）神社』をご存知ですか？東日本大震災で津波被害に遭った地域の神社です。当初は稻荷神社として建立されていましたが、かつて一千年前の昔にも東日本大震災に匹敵するほどの津波があった際、神社の直前で波が引いたことから、『浪分』と結界の意味を込めて名称を改めたのです。今回も浪分神社に津波が到達することはありませんでした。昔から仙台の若林地区一体は大津波や洪水被害が繰り返されてきたことから、昔の人は『大津波がきたら浪分神社まで逃げろ』と先祖代々語り継いで来ました。後世が同じ被害に遭わない様にと、家を建てる場所や避難する場所の目安として浪分神社を祀ったわけです。従って、古くから若林地区一帯に住む人は言い伝えを

守り、決して神社よりも海側に住まいを構えることをしなかつたといえます。しかし、昨今は企業の誘致や県外の人が多く住むようになりました。昔からある古い言い伝えなどは根拠のないものとして軽視され、海岸沿いを中心に町の開発が進んだのです。無常にも今回の大震災で再び大津波が町を襲う歴史が繰り返されてしまいました。あなた方は若い世代です。古くからある教えや言い伝えを軽んじることなく、後世に語り継いで頂きたいと切に願います。歴史や伝統は語り続けなければ意味がないのです。」と静かにお話をして下さいました。

注連寺でのお参りを終えた帰り際、本堂の入り口におみくじが置かれていたのを見つけました。さっそく、鉄門海上人からのお言葉を頂戴すべく、おみくじを頂きました。注連寺では、和歌が書かれているタイプのものではないです。

第三九番 吉

月かげの山のは
近うかたむけは
ほのぼのしらむ

東のそら

おみくじの解釈には、「こちらによくすればあちらにわるく、右によくすれば左にわるく、常に心の迷いあり。腹立ちやすい心を押さえて利欲をすて驕りを戒めれば人望まし利益を得ます。」との説明が書かれていました。おみくじを自分なりに分析してみると、月は夜の象徴であり、五行思想では陰になります。反対に、太陽は朝の象徴で陽です。月と太陽は一度に拝せないように、「二兎を追うものは一兎をも得ず」を示していると考えました。また、異なる二つの要素ありとみて「火沢睽」を含んでいると見ました。一句目に「月かげの山のは（山の端）」とあります。月の日周運動から分析すると、春分・秋分頃の満月は明け方頃に真西へ沈むことから、季節は春分又は秋分の頃との解釈もできそうです。また、「月」と「山」から、月山の本地仏である、阿弥陀如来と西方浄土に関する解釈も考えられます。また、以前から福田先生に、月は女性、妻、母、祖母の象徴と教

えて頂いておりましたので、母親に関する用事あり、との見方もできます。さらに、二句目で月が沈む様子があることから夏頃に沈むような何かを警戒する注意が必要であることも予測されます。このおみくじでは、三句目以降から次第に太陽が昇り陽に転じる様子がありますので、本業を大切に、目の前にあることに取り組み、夜が明けて朝になるように、順を追って進む姿勢が大切であると判断しました。おみくじを通じて、仏の声をいかに読み取り組み合わせるかに読みの組み合わせが今後の大きな課題にもなりました。

旅行から帰ると、福田先生が旅行の占断について答え合わせして下さいました。「出羽三山参りは、満願成就のためのお参りであるわけです。即身仏で得た雷火豊の卦は、三陰三陽卦で、地天泰の交易卦です。初めは泰であつたけれども二爻が四爻に動いて豊となつたわけです。泰には觀世音菩薩の象意があり、化身して豊の大日如来になつたと見てとることができ

ます。また、即身仏の修業をするほどの人は四角型の顔をした人でしょう。決して丸型の顔の人には耐えられない修行なので、それから、むしろ鉄門海上人に深く感じしたのは御主人の方ではありませんか？爻が動いて震になつたのですから、彼はお寺のご住職のお話で胸の内をグサツと突かれたのです。その痛みはナイフで突かれるような鋭い痛みですよ。また、未来を象徴する湯殿山が未だ開かずとすれば、先に期待するものは時期尚早とみてよいでしょう。」と、卦に含まれる様々な事象をまるで目にされたかの様にご説明して下さいました。事実、旅先から帰った主人は、暫くの間、鉄門海上人について語り、注連寺と即身仏の話が尽きることはありませんでした。また、福田先生は、即身仏を歴史的、学術的な観点からも勉強するようご教示下さいました。福田先生が所蔵されている、内藤正敏氏の『日本のミイラ信仰』によれば、湯殿山で即身仏を志す人は、一世行人と呼ばれる出身階層

の低い寺男の方で、妻帯を許されず、生前から五穀十穀を断つ木食行を続けながら一千日間におよぶ難行苦行を行い、自ら土中入定をしたと伝えて

います。ただ、鉄門海上人については、後に土中入定説ではなく寺の本堂で入定したとの説が有力であるとの見解が記されています。學術調査の結果では、注連寺の即身仏と鉄門海上人の署名のある手形の指紋が一致し、血液型がB型である旨も記されています。また、注連寺発行『恵眼院鉄門海上人伝』によれば、鉄門海上人は、俗名を砂田鉄といい、明和五年（一七六八年）秋生まれとあります。万年曆で調べた結果、鉄門海上人は、本命星戊子・七赤金星の生まれであることが分かり、月命星は秋生まれであることから、庚申月・二黒土星（坎宮傾斜）か、辛酉月・一白水星（坤宮傾斜）、或いは壬戌月・九紫火星（震宮傾斜）のいずれかであろうと予想されます。

を理解し、語ることでできるよう精進して参りたいと存じます。

八川 林加



山田恵諦法話集より

長寿の秘訣について 『三つのこと』が秘訣です。

一つ目は心配をしないこと。自分で判断できることは勿論自分で判断しますが、判断出来ない事は相談相手に相談する。『もたれかかる柱』を持つ事です。私の場合、その相談相手が、観音様のおみくじなのです。それで相談して決めます。元三大師は百頌といつて百の頌文にいわれの書いてあるおみくじを残しているのです。元三大師を江戸時代の天海大僧正が大変崇拜しており「万一分が亡くなった時、迷う事があれば戸隠山の奥に百頌を残しておくから、お経を読んでおみくじを引きなさい」と言い残しているのです。おみくじは吉凶に頼るのではなく、百頌によって決めるのです。『観音様にお任せしているのだから』という気持ちになってあまり心配する事も無いのです。二つ目は『無理をしない』ということ。自分の中学生の頃に「三世相」という本を読みこの時代に生まれた人は『金持ちになれない、しかし必要な金には困らない』と書いてあったのです。『これを読んで自分は無理に金儲けをしなくていいんだ、こんな良いことはないと思つたものです。友達から「映画に行こう」と誘われ、金がない時でも「行かん」とはいえない。「金がないなら貸してやるから」と云われると、困つてしまう。自分のもとと金とは縁のない人間だ、しかし必要な金には困らない。だとすれば、必要のあり方をどこへもつていくか。自分の為に必要か、そのこと自体が必要か不必要か、金の有無で決める。金が無かつたら必要がないからだと思えばよいのです。したいことをするとか

ていないとかなく、金がないのは、必要がないという知らせであると受け止める。

どんな場合でも金が無かつたら必要でないと思えるようになり気が楽になりました。あまり悩むこともなく生活に無理がかからなくなりました。これが無理をしないという考え方です。

三つ目は「ちよつと遠い将来に目標を置く」という事ですが、江戸時代の傑僧、天海大僧正と清水寺の貫主を務められた大西良慶さんともに百八才まで生きられました。私は関西では「大西さんの年齢まで生きてください」と云われ、関東に行くくと「天海さんの年まで頑張つて下さい」と云われます。大西さんは亡くなる三か月前まで観音堂でお説教をされておられ、天海さんも百二十才で比叡山の大講堂を復興された。百歳を越しても最後まで働かれたお二人、遠くを見て目標をたてること。これも長寿の秘訣の一つといえます。

事務局だより

次回の例会

十一月二十六日（土）

午後一時十五分より

「足立区こども家庭支援センター」にて開催

講演

「第三回目 宿曜占星術」

吉田侑加先生

疑問・質問もお受けします。

アラカルト

「方位について」

福田有宵先生

有宵会第九回研修

旅行のご案内

期日 十一月十五日（火）

十六日（水）

行先 霜月の旅路は

「南房総 安房鴨川」

旅程 第一日 那古観音

（坂東三十三番札所）

第二日 館山安房神社

（一の宮）崖の観音

宿泊 鴨川温泉「鴨川館」

費用 三万五千元

集合 上野駅公園口、

集合七時十五分、

出発七時三十分

（朝食におむすびとお茶を用意します。）

なお一日目には那古観音

での納経を予定して

います。

震災以後不安定な日々

です。被災地の一日も早い

復興を願い、且つ皆々様

のご無事・ご健勝を念じて特別な想いでお参りしましょう。

日本占術協会の催しから

九月九日（金）日占協

「九・九の日」には パネル

ディスカッションを開催

テーマ「震災後の社会と

明日の日本を考える」

有宵会からは九名の方

が参加しました。

十月二十三日（日）日

本占術協会シンポジウム

開催。北とびあひら「飛鳥

ホール

午前十一時～午後五時、

参加費 四千元、自由参

加

「易経と孔子について」福

田有宵先生

「タロットと占術の効能か

ら新しい心理療法として

の道へ」井上教子先生

「現代に役立つ古代中国の

叡智、子平推命を使いこ

なそう」小山眞樹代先生

「ピンチの中で運を伸ばし

ていく人の手相」

浅野八郎先生

有宵会七月の例会には

七十五名の方が参加され

ました。

なお、平成二十三年度の

会費を未納の方は、十一

月の例会までに納めて下

さい。

伊藤 璃香

